

※発注品の「型式・材質・納期・仕様書記載品以外の同等品認定・その他の内容」等について疑義がある場合は、事前に仕様書記載の担当課へ直接問い合わせること(但し、担当者が一時不在や施設により平日閉庁の場合があるので注意すること)。
担当課の事前承認なき場合は、仕様書記載どおりに履行すること。
見積時の質疑・同等品認定、随意契約同への無承認事項の記載、落札後の条件変更等は認めない。

1

消防団員用ケブラー手袋購入仕様書

- 1件名消防団員用ケブラー手袋
- 2履行場所福岡市消防局(本部(水上団)及び6消防署)
- 3履行期間契約締結日から令和9年3月15日まで

内 訳

品名	規格	単位	数量	備考
消防団員用ケブラー手袋	消防団員用ケブラー手袋 仕様書のとおり	双	276	所属毎数量、サイズ等は 別途指示

《担当》
所属：福岡市消防局 警防部 消防団課
住所：福岡市中央区舞鶴 3-9-7
TEL：092-725-6564
氏名：木下 優也

消防団員用ケブラー手袋仕様書

福岡市消防局

1 目的

この仕様書は福岡市消防団員用ケブラー手袋（以下「手袋」という。）について必要な事項を定めることとする。

2 標準規格（参考品）

(1) ユアサグローブ株式会社 KE303NVD

(2) 株式会社トンボ K-707HTNVD

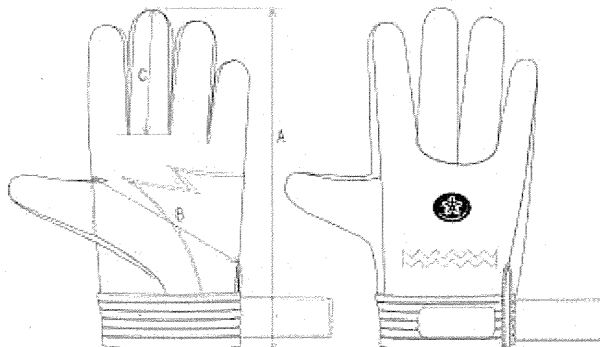
※上記商品若しくは同等品以上とする。

3 安全性能（参考品）

項目	KE303NVD		K-707HTNVD		試験方法
	甲側		甲側		
	たて (ウエール)	よこ (コース)	たて (ウエール)	よこ (コース)	
引張強さ (N)	680以上	1,000以上	845	1,158	JIS L 1096 A法
引裂強さ (N)	90以上	90以上	90	101.2	JIS L 1096 A-1法
破裂強さ (N)	1900以上		19,112		JIS L 1096 B法
摩擦強さ (N)	1,000以上		1,000回穴あきなし		JIS L 1096 F-2法
切創力 (N)	9以上		9.5		ISO 10997 法

4 手袋のサイズは、下記図表のとおりとする。

【図】



【寸法表】

(単位 mm)

	A	B	C
SS	205	207	76
S	212	214	78
M	218	220	81
L	225	227	83
LL	232	234	85
3L	239	241	88

(誤差± 5 %)

5 納品

- (1) 袖口裏側には所属・氏名の書き込める片布とサイズ表示を縫付けること。
- (2) サイズはSS・S・M・L・LL・3Lの6サイズとし、下記の寸法表を参考にする事。
- (3) 1双毎にアルミ蒸着袋に入れサイズシールを貼って納めること。
- (4) 本手袋の製作にあたり、工業所有権等に関する法律に抵触する問題及びその他の問題が生じた場合は、受注者の責任においてこれをすべて解決すること。
- (5) 納品後といえども、仕様、寸法等に不備又は相違があるときは、速やかに取り替えること。また、構造・規格及び使用材料等が異なるものであっても、それが本仕様書の製品と同等以上の性能を有するものであると当局（消防団課）が認めた場合はこの限りではない。

6 その他

同等品で見積もる場合は、見積もり合わせ2営業日前17時までにカタログ等を提出し、当局（消防団課）の了承を得ること。

※発注品の「型式・材質・納期・仕様書記載品以外の同等品認定・その他の内容」等について疑義がある場合は、事前に仕様書記載の担当課へ直接問い合わせること(但し、担当者が一時不在や施設により平日閉庁の場合があるので注意すること)。
担当課の事前承認なき場合は、仕様書記載どおりに履行すること。
見積時の質疑・同等品認定、随意契約伺への無承認事項の記載、落札後の条件変更等は認めない。

2

消防団員用編上靴 外 1 件 購入仕様書

- 1 件 名 消防団員用編上靴 外 1 件
- 2 履 行 場 所 福岡市消防局（5 消防署）
- 3 履 行 期 間 契約締結日から令和 9 年 3 月 15 日まで

内 訳

品 名	規 格	単 位	数 量	備 考
消防団員用編上靴	消防団員用編上靴 仕様書のとおり	足	105	サイズ等は別途指示
女性消防団員用短靴	女性消防団員用短靴 仕様書のとおり	足	3	サイズ等は別途指示

《担当》

所属：福岡市消防局 警防部 消防団課
住所：福岡市中央区舞鶴 3-9-7
TEL：092-725-6564
氏名：木下 優也

消 防 団 員 用 編 上 靴 仕 様 書

福岡市消防局

1. 適用範囲

この仕様書は、福岡市消防団で使用する安全編上靴(以下「靴」という)について規定する。この靴に使用する材料及び付属品については、検査が十分に行われ、安全なものであり、この仕様書に疑義が生じた場合、又は変更が必要な場合並びにこの仕様書に規定されていない事項について当然欠くことのできない事については、当局と協議し、その指示に従うこと。

2. 製法及び種類

靴の製法は、直接加硫圧着式製法とし、靴の種類はJIS T 8101:2006(安全靴)に規定する革製普通作業用(S)とし、付加的性能として、かかと部の衝撃エネルギー吸収性(E)、耐滑性(F)、耐踏抜き性(P)を有し、且つ、JIS T 8103:2010(静電気帯電防止靴)に規定する一般静電安全靴:環境区分1(ED-P/C1)とする。

3. 形 式

靴の形式は、外ファスナー付きひもタイプ外羽根長編上靴とする。(図-1)

4. 各部の名称及び主要材料

各部の名称は、図-1～3、表-6による。

主要材料は以下による。

4.1 甲 被

甲被は、厚さが均等で、傷などの欠点がなく、クロムなめし法により製造し、JIS T 8101:2006(安全靴)の革の試験方法によって試験したとき、表-1に適合する耐熱性のある牛クロム型押し銀付革を用いる。

表-1

項 目		規 格
銀面割れ	高さ mm	6.0以上
	荷重 N	150以上
クロム含有量 %		3～5.5

4.2 表 底

表底接地部(アウトソール)は、滑り止め効果のある形状を有し、JIS T 8101:2006の表底の試験方法によって試験したとき、表-2に適合する合成ゴムを用いる。

表-2

項 目		規 格
引張試験	引張強さ MPa	14以上
	伸び %	300以上
引裂試験	引裂強さ N/mm	35以上
老化試験	引張強さの変化 %	-15～+15
浸せき試験	体積変化率 %	12以下

4.3 甲縫糸

甲縫糸は、太さ及びより方が均等で、使用目的に適合した合成繊維糸を用いる。

4. 4先しん

先しんは、表面をすべて平滑に仕上げ、へり及び角に丸みをつけたワイド強化樹脂製のものをを用いる。

4. 5中 底

中底は、導電性を有し、柔軟性及び吸湿性のある合成材を用いる。

5. 構造及び靴のサイズ

5. 1 構 造

靴は、人体に帯電する静電気を低温低湿度環境下でも安定して靴底から漏洩させる性能を有した構造で、下記の特徴をもつ外羽根長編上タイプとする。

- (1)つま先にワイド強化樹脂製先しんを装着
- (2)内腰部にパッチ革(当て革)付
- (3)履き口部にクッション入り
- (4)市革部に暗所での視認性を高めるための反射材付き
- (5)外腰部に脱ぎ履きが容易なように履き口から足甲部側に傾斜させたファスナー付き
- (6)屈曲しやすいようにはとめ革足首付近に切れ込み入り
- (7)べろ革裏に氏名記入欄付

また、表底はクッション性と耐熱性に優れ、JIS T 8101:2006 に表底材として規定された合成ゴムの加熱一体成形された2層底(発泡ゴムと無発泡ゴムの2層構造)で、踏抜防止板を内装し、底意匠(スリップサイン付)は耐滑性、屈撓性、泥づまり防止を加味したものとする(図-1～3)。

5. 2 サイズ

靴のサイズは、JIS S 5037:1998(靴のサイズ)に規定するEEE(男子用)を準用し、表-3のとおりとする。

表-3

単位 cm

22.5	23	23.5	24	24.5	25	25.5	26	26.5	27	27.5	28	28.5	29	30
------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	----

6. 完成品の性能

6. 1 一般性能

6. 1. 1 耐衝撃性及び耐圧迫性

靴の耐衝撃性及び耐圧迫性は、JIS T 8101:2006 の衝撃試験方法及び圧迫試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6. 1. 2 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は、JIS T 8101:2006 の表底のはく離試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6. 1. 3 かかと部の衝撃エネルギー吸収性

靴のかかと部の衝撃エネルギー吸収性は、JIS T 8101:2006 のかかと部の衝撃エネルギー吸収試験方法によって

試験したとき、表－4に適合すること。

6. 1. 4 耐滑性

靴の耐滑性は、JIS T 8101:2006 の耐滑試験方法によって試験したとき、表－4に適合すること。

6. 1. 5 耐踏抜き性

靴の耐踏抜き性は、JIS T 8101:2006 の耐踏抜き試験方法によって試験したとき、表－4に適合すること。

6. 1. 6 帯電防止性能

靴の帯電防止性能は、JIS T 8103:2010 の 9.1 によって試験したとき、測定値では15秒値と1分値の両方で、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表－4に適合すること。

また、JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき、靴1個当たりの電気抵抗(R)が表－4に適合すること。

表－4

項 目	規 格														
耐衝撃性及び耐圧迫性 (試験条件:S種)	<table><tr><th>サイズ(足長)</th><th>すき間(mm)</th></tr><tr><td>23以下</td><td>12. 5以上</td></tr><tr><td>23. 5～24. 5</td><td>13. 0以上</td></tr><tr><td>25～25. 5</td><td>13. 5以上</td></tr><tr><td>26～27</td><td>14. 0以上</td></tr><tr><td>27. 5～28. 5</td><td>14. 5以上</td></tr><tr><td>29以上</td><td>15. 0以上</td></tr></table>	サイズ(足長)	すき間(mm)	23以下	12. 5以上	23. 5～24. 5	13. 0以上	25～25. 5	13. 5以上	26～27	14. 0以上	27. 5～28. 5	14. 5以上	29以上	15. 0以上
	サイズ(足長)	すき間(mm)													
	23以下	12. 5以上													
	23. 5～24. 5	13. 0以上													
	25～25. 5	13. 5以上													
	26～27	14. 0以上													
	27. 5～28. 5	14. 5以上													
29以上	15. 0以上														
※すき間…中底と先しんとのすきま															
表底のはく離抵抗	表底のはく離抵抗が300N以上														
かかと部の 衝撃エネルギー吸収性	吸収エネルギーが20J以上														
耐滑性	動摩擦係数が0. 20以上														
耐踏抜き性	くぎが貫通したときの力が1100N以上														
帯電防止性能	JIS T 8103:2010 の 9.1 によって試験したとき 靴1個当たりの電気抵抗(R)が 測定温度 23±2℃、相対湿度 12±3%(環境区分1)において、 1.0×10 ⁵ ≤R≤1.0×10 ⁸ Ω (0.1≤R≤100 MΩ) 測定温度 0+2℃(相対湿度を定めない)において 1.0×10 ⁵ ≤R≤1.0×10 ⁹ Ω (0.1≤R≤1000 MΩ)														
	JIS T 8103:1983 の第2試験方法によって試験したとき 靴1個当たりの電気抵抗(R)が 1.0×10 ⁵ <R<1.0×10 ⁸ Ω (0.1<R<100MΩ)														

6. 2 耐熱性能

6. 2. 1 表底の接触耐熱性

表底(ミッドソール)および表底接地部(アウトソール)の接触耐熱性は、ISO20344:2011 の8.7の高温耐熱接触性試

験に準拠した試験方法によって試験したとき、表－5に適合すること。

6. 2. 2 靴内部の接触断熱性

靴内部の接触断熱性は、ISO20344:2011 の5. 12の接触断熱性試験方法によって試験したとき、表－5に適合すること。

表－5

項 目		規 格
表底の 接 触 耐 熱 性	表底 (ミッドソール)	300℃、1分の接触で溶融なく、屈曲による亀裂が発生しない事
	表底接地部 (アウトソール)	
靴内部の接触断熱性		150℃熱板接触で靴内部の22℃温度上昇するまでの時間が20分以上

7. 品質及び外観

靴は、仕上げが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、使用上有害な傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査及び試験

8. 1 帯電防止性能検査

靴の帯電防止性能検査は、JIS T 8103:2010 の 9.1 に規定する試験方法により、抜取検査を行うと共に JIS T 8103:1983 の 6.1.2 に規定する第 2 試験方法により全数検査を行う。

8. 2 材料及び完成品検査

材料及び完成品についての検査は合理的な方法で行い、試験は JIS T 8101:2006 の規定により行う。

9. 包 装

靴は、1足ずつ個装箱に詰め、見やすい位置に所属及び職員の氏名を記載したシールを貼付すること。

10. 表 示

10. 1 製 品

靴の表底には、社標、サイズ、JIS マーク、認証機関名又は略号等を容易に消えない方法で表示する。
靴の中敷にはJISマーク、認証機関名又は略号 JIS 規格による種類、JIS 認証番号、製造業者名又は略号等を表示する。また、べろ革裏に氏名記入欄(図－2)を付ける。

10. 2 個装箱

靴の個装箱には、品名、サイズ、JIS マーク、認証機関名又は略号、JIS 認証番号、JIS 規格番号、JIS 規格による種類、製造業者名又は略号等を表示する。

11. 静電靴検査票

靴には、1足毎に静電靴検査票(裏面:注意事項)を添付する。

12. その他

納品その他については、当局係員の指示に従い所属別に納品すること。

納品後といえども、構造、品質等に不備又は相違があるときは、速やかに補修するか又は取り替えること。

表-6

単位 mm

No.	名 称	使 用 材 料	備 考
1	先 革	牛クロム型押し銀付革 黒	厚さ1.7 標準
2	腰 革	〃 〃	〃
3	市 革	〃 〃	〃
4	当て革	〃 〃	〃
5	ファスナーカバー革	〃 〃	〃
6	べろ革	牛エバースキン 〃	厚さ1.0 標準
7	はとめ裏	〃 〃	〃
8	べろ落ち防止革	〃 〃	〃
9	インボケ	〃 〃	〃
10	マチ革	牛ソフト革 〃	厚さ1.1 標準
11	反射材	再帰性反射布 オレンジ	幅 15 標準
12	先 裏	合成繊維帆布	
13	履口裏	合成材 グレー	
14	履口クッション	スポンジ	
15	マジックテープ	合成樹脂製 黒	幅 25 標準
16	サイドファスナー	樹脂コイルファスナー No.5 〃	長さ180～210 標準
17	はとめ	真鍮製 〃	#300 丸／黒天塗
18	月形しん	再生革	
19	甲縫糸	ワイド合成繊維糸	#20 番手相当
20	中 底	導電性合成材	
21	先しん	強化樹脂製	
22	踏抜防止板	ステンレス板	厚さ0.4 標準
23	表底(ミッドソール)	発泡合成ゴム 黒	静電配合
24	表底接地部(アウトソール)	耐油性合成ゴム 〃	〃 、表-2による
25	中 敷	合成材カップインソール 黄	導電構造、抗菌・防臭加工
26	靴ひも	綿、合成繊維混紡丸ひも 黒	長さ1500 標準
27	氏名記入欄	綿布 又は 熱転写シール	

図-1 外 観

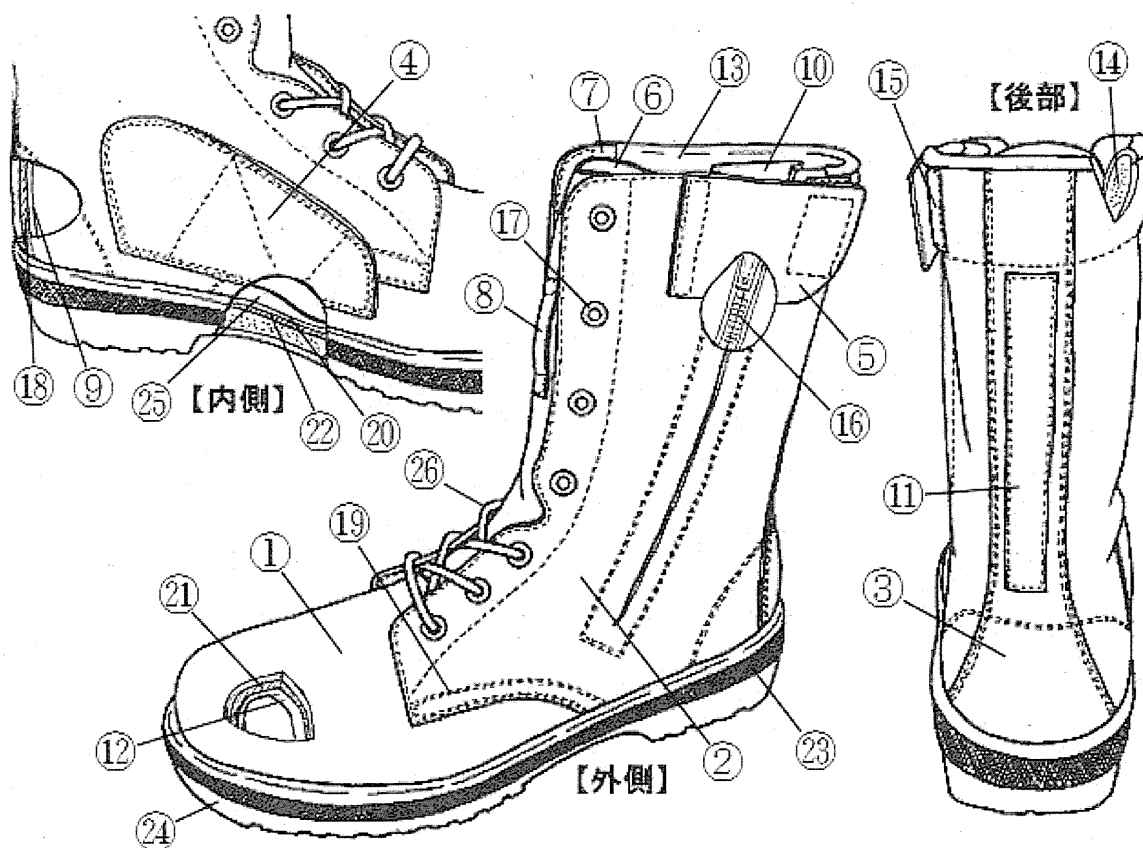
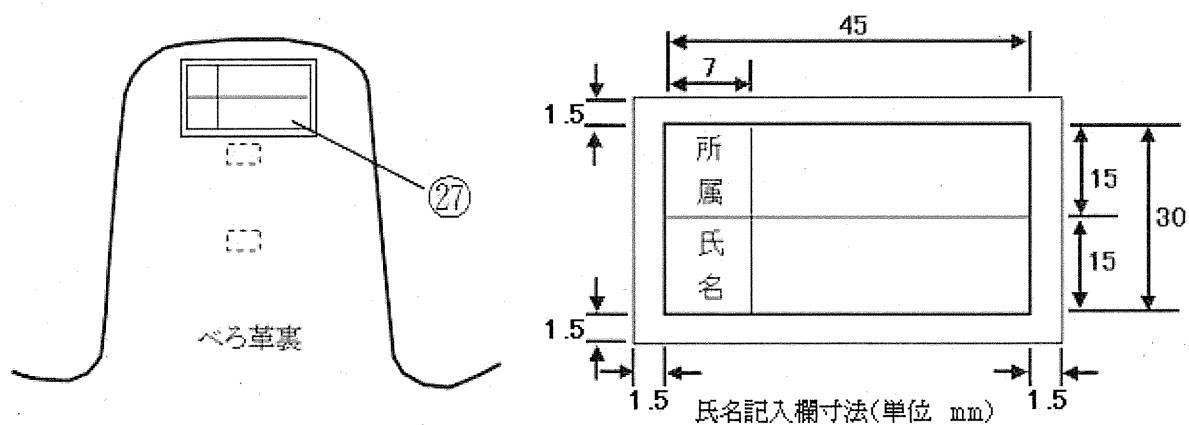
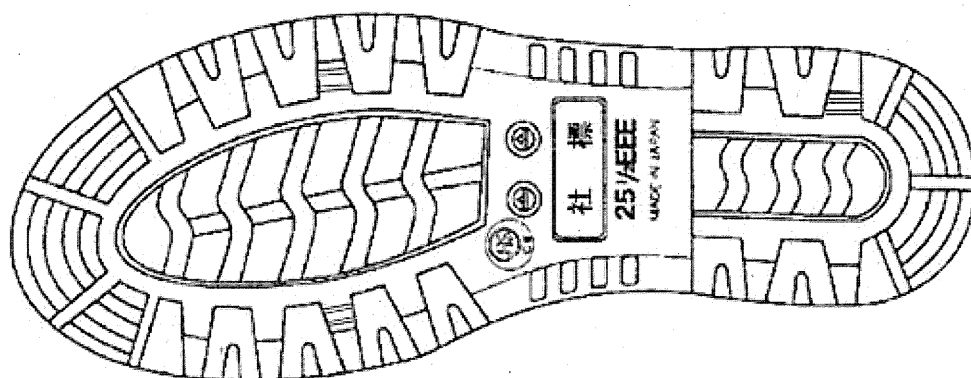


図-2 氏名片布



図－3 底意匠



但し、図による各部の形状は多少の相違を認めるものとする。

女性消防団員用短靴仕様書

福岡市消防局

1. 適用範囲

この仕様書は、福岡市消防団で使用する女性消防団員用短靴(以下「靴」という)について規定する。この靴に使用する材料及び付属品については、検査が十分に行われ、安全なものであり、この仕様書に疑義が生じた場合、又は変更が必要な場合並びにこの仕様書に規定されていない事項について当然欠くことのできない事については、当局と協議し、その指示に従うこと。

2. 製法

靴の製法は、セメント式製法とする。

3. 形式

靴の形式は、パンプス式短靴とする。(図－1)

4. 各部の名称及び主要材料

各部の名称は、図－1、表－5による。

主要材料は以下による。

4.1 甲被

甲被は JIS K 6505:1995(靴甲用人工皮革試験方法)によって試験したとき、表－1に適合する人工皮革を用いる。

表－1

項 目		規 格
引張強さ	縦	7.0以上
	横	
伸び	縦	40以上
	横	

4.2 表底

表底(アウトソール)には JIS T 8101:2006(安全靴)の表底の試験方法によって試験したとき、表－2に適合した合成ゴムを用いる。

表－2

項 目		規 格
引張試験	引張強さ MPa	13以上
	伸び %	300以上
引裂強さ N/cm		300以上
浸せき試験	体積変化率 %	20以下

4.3 甲縫糸

甲縫糸は太さ及びより方は均等なもので、使用条件に適合する合成繊維糸を用いる。

4.4 中底

中底は柔軟性及び吸湿性のある合成材を用いる。

5. 構造及びサイズ

5.1 構造

靴の構造は脱ぎ履きの容易なパンプスデザインで、表底は2層構造で、ミッドソールは軽量で衝撃吸収性に優れたEVA、アウトソールは耐油性合成ゴムとし、アーチサポート構造及びアーチクッションによる疲労の軽減を図ったものとする。

また、底意匠は水や油などで滑りやすい床でも耐滑性及び屈撓性、泥詰まり防止を加味したものとする。(図-1, 2)

5.2 サイズ

靴のサイズは JIS S 5037:1998(靴のサイズ)に規定するEEE(女性用)を準用し、表-3のとおりとする。

表-3

(cm)

22	22.5	23	23.5	24	24.5	25	25.5
----	------	----	------	----	------	----	------

6. 完成品の性能

6.1 表底のはく離抵抗

靴の表底のはく離抵抗は JIS T 8101:2006 の表底のはく離試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.2 かかと部の衝撃エネルギー吸収性

靴のかかと部の衝撃エネルギー吸収性は JIS T 8101:2006 のかかと部の衝撃エネルギー吸収試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

6.3 耐滑性

靴の耐滑性は JIS T 8101:2006 の耐滑試験方法によって試験したとき、表-4に適合すること。

表－4

項 目	規 格
表底のはく離抵抗	200N以上
かかと部の衝撃エネルギー吸収性	吸収エネルギーが20J以上
耐滑性	動摩擦係数が0.20以上

7. 品質及び外観

靴は仕上げが良好で、形状が均整かつ堅固なもので、使用上有害な傷、斑点、汚れ、その他著しく外観を損なうような欠点がないものとする。

8. 検査及び試験

材料及び完成品についての検査は合理的な抜取方式によって行う。

9. 包装

靴は1足づつ個装箱に詰めること。

10. 表示

靴には品名、サイズ、製造年月又は略号等を表示する。また、個装箱には品名、サイズ、発売元、注意書き等を表示する。

11. その他

納品その他については、当局係員の指示に従い、納品すること。納品後といえども、構造、品質等に不備又は相違があるときは、速やかに補修するか又は取り替えること。

表-5

単位 mm

No.	名 称	使 用 材 料	備 考
1	先 革	人工皮革 黒	厚さ 1.7 標準
2	腰 革	〃 〃	〃
3	市 革	〃 〃	〃
4	先 裏	合成材 〃	厚さ 0.8 標準
5	腰 裏	〃 〃	厚さ 0.5 標準, 氏名記入枠付き
6	ス ベ リ	〃 グレー	〃
7	先 し ん	〃	厚さ 0.8 標準
8	月 形 し ん	〃	〃
9	縫 糸	合成繊維糸 黒	#30、#40 番手相当
10	中 底	合成材	厚さ 1.5 標準
11	中 物	EVA	厚さ 2.0 標準
12	中 敷	合成材 黒	スポンジ付, 厚さ 4.0 標準
13	アーチクッション	ウレタンスポンジ	厚さ 6.0 標準
14	表底(ミッドソール)	EVA 黒	
15	表底(アウトソール)	耐油性合成ゴム	表-2による

図-1 外観図

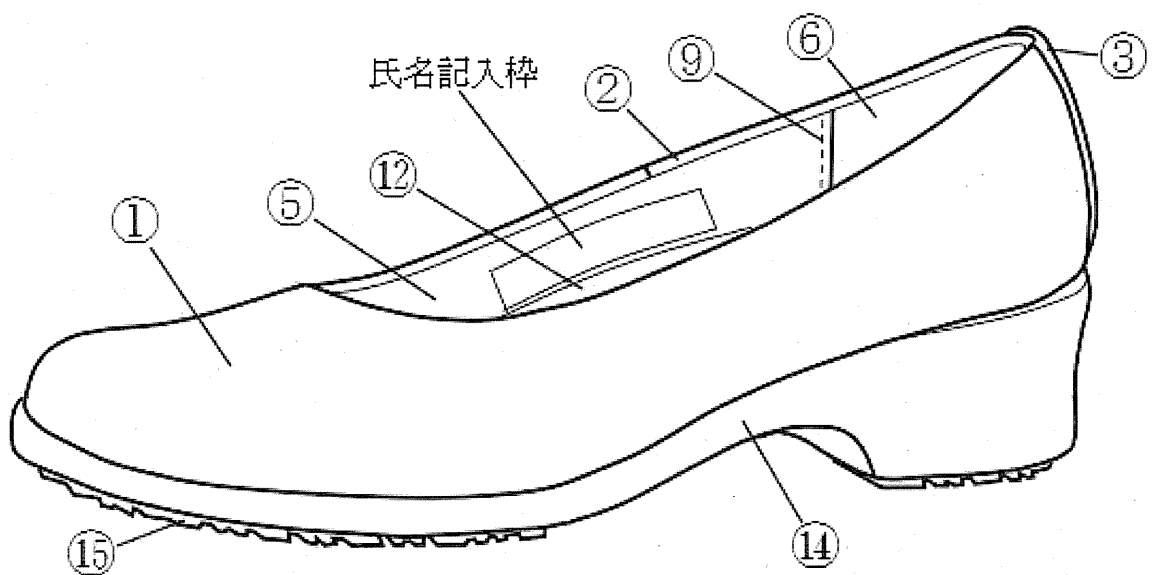
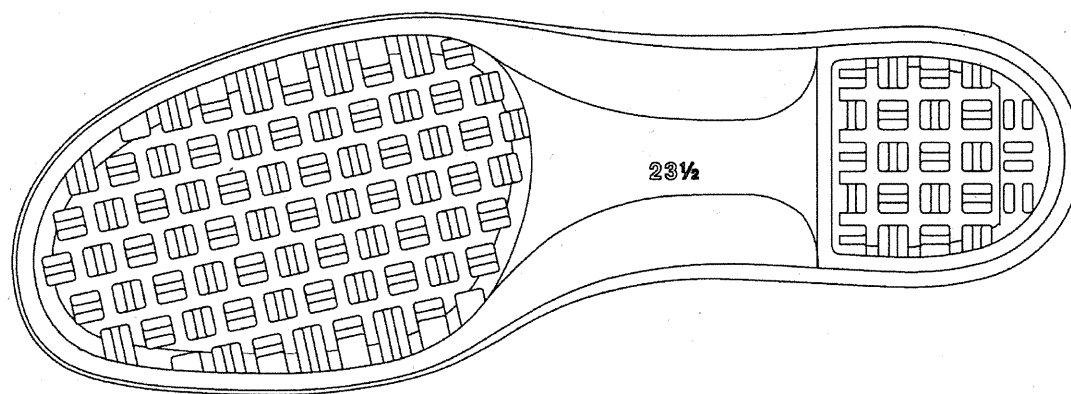


図-2 意匠図



但し、図による各部の形状は多少の相違を認めるものとする。